

全分野共通の取りまとめ表

※全体的なご意見について、「共創」、「次世代技術の導入・導入支援」、「その他」の3点でまとめたもの。

No.	委員からのご意見	意見に対する考え方
【共創(地域人材の活用など)の視点】		
1	資料の中でも、協働、連携、つながりなど、共創の観点が入っているが、施策の展開でもその記載で完結している印象。そこからどう展開し、ステップしていくかがないと絵に描いた餅になってしまう。連携の具体的なイメージを持ち、次のステップをにらんで考えないといけない。	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿5の施策②広域観光の推進の「現況と課題」の4点目、観光サービスの提供は観光事業者に限らず、伝統産業に関わる人々など地域の魅力創造に関わる全ての人々が連携する必要があることから、{本市}を「地域」に改めた。 ・No.1～6については全般的に検討しており、めざすまちの姿16の施策①市民が主役の地域づくりへの支援の「各施策の展開」の中に委員からの意見について記載済である。事業レベルの意見については、今後の事業実施時にしっかり配慮していきたい。 ・No.1、2については、めざすまちの姿15の施策②消防・救急・救助体制の充実の「施策の展開」の＜消防力の充実強化＞の3点目及び＜救急・救助体制＞の2点目に加えた。
2	地域の人材をどう掘り起こすのかが重要である。ボランティアの手法として「スキルストック」というものがあり、人の話を聞くとか、小さなことからでも、自分にできることを登録して必要が生じたときにマッチングを行うものである。多様化する課題に対するアプローチと、予め自分にできるボランティアを登録するアプローチを、同時並行でいいので取り入れることはできないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿12の施策①地域福祉の推進の「施策の展開」の＜ボランティア・NPO活動の充実＞に情報の収集と提供体制を整備し、環境づくりを進める内容を加えた。
3	中間総括でも、例えば開催数や利用人数といった計画しやすい数値のまちづくり指標は達成率が100%を超えているものが多いが、不安・負担度のような、相手の心に訴えかけ、行動を変容するような施策に関する指標の達成率が低くなっており、共創の意識が広がっていない表れではないかと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策ごとに共創の視点の表記を検討し、めざすまちの姿5の施策②広域観光の推進や、めざすまちの姿15の施策②消防・救急・救助体制の充実など各施策に反映した。
4	市民の主体的な取り組みには共創の意識を広めることが不可欠である。共創の推進も力を入れていきたいと思うが、そのためにも部局を超えた横断的な取り組みにする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策ごとに共創の視点の表記を検討し、めざすまちの姿5の施策②広域観光の推進や、めざすまちの姿15の施策②消防・救急・救助体制の充実など各施策に反映した。

No.	委員からのご意見	意見に対する考え方
5	<p>ボランティアについては、共創の考えにも出てくるが、①ミッションを共有し、②役割分担を明確にし、③PDCAを回していく、ことが求められる中で、②の市民の活躍を期待する(役割を決める)ことばかりに力をいれても、共創は進まない。手間がかかる部分の①ミッションの共有に力を入れなければいけない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿7の施策①高岡駅・新高岡駅の周辺整備の「現況と課題」の2点目、新高岡駅の利用促進は高岡市のみならず県西部全体で目的を共有しながら取り組んでいく課題であることから、「県西部地域が一体となって」を加え、「施策の展開」の〈新幹線の利用促進〉の2点目に「に向け目的を共有」を加えた。 ・市民協働型交通システムの導入には、地域での意見交換、意見集約が必要であり、地域での導入検討において需要、経路設定等についても協力している。 ・マイレール意識等の醸成によって市民一人ひとりが公共交通を守っていくというミッションを共有し、ともに持続可能な公共交通を構築していきたい。
6	<p>学校と地域との連携を深め、共創を進めるためには、地域側の潜在的な資源(人材も含む)の掘り起こしが不可欠である。特に現役を引退した、経験豊富な人たちをどう地域に引き込めるかが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿5の施策②広域観光の推進の「施策の展開」の〈広域観光の推進〉の3点目、敦賀延伸によって金沢以西へ人の動きがシフトすることを見据え、単独の地域だけでなく地域連携によって共通テーマに沿った素材の掘り起こしによる周遊観光の充実など、より地域全体の魅力が増すことから、「金沢・敦賀間開業に向け、地域間の連携による」を加えた。北陸新幹線開業から5年を経過し、情勢も大きく変化しており、また、R5春の敦賀開業を迎えさらなる高岡の立ち位置を確立する。 ・めざすまちの姿15の施策①防災対策の充実の「ひとの力の視点」に、地域における人材の登用のため、地区に根差した防災士の擁立と育成を図ることを記載。 ・めざすまちの姿15の施策②消防・救急・救助体制の充実の「施策の展開」の〈消防力の充実強化〉の3点目及び〈救急・救助体制〉の2点目に加えた。 ・これまでも授業のゲストティーチャー、小学校のクラブ活動や土曜学習の講師、中学校部活動の外部講師として、芸術、文化、スポーツなどの分野において、専門性の高い地域人材を活用している。今後も、保護者や地域住民、各種団体等との連携を図り、人材発掘と有効活用に努める。

No.	委員からのご意見	意見に対する考え方
【次世代技術(デジタル化など)の導入・導入支援の視点】		
7	デジタル化、デジタル革命の中で、資料に記載してある内容はまだまだ足りない印象。総論で視点が入っているが、まだまだブラッシュアップしていけば、行政サイドの手続き(行政のデジタル化)やUI/ターンの観点などの施策にも入ると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・No.7、12については、めざすまちの姿17の施策①市民に開かれた市政の推進の「施策の展開」の2点目、「電子申請の周知などを通じて」を加えた。 ・No.7、12については、めざすまちの姿17の施策③簡素で効率的な行財政の推進の「施策の展開」の1点目、「行政のデジタル化」を加えた。 ・デジタル化については、全施策共通で求められる視点であると考えている。国・県の施策や先進事例について情報を収集し、各部局と情報を共有し、スピード感を持って各施策においてデジタル技術を活用していきたい。
8	デジタル化で人が不要になるという考えを言う人がいるが、そうではない。人のやるべきことに集中し、人がやらなくてもいい仕事を減らし、ひとの力を発揮させるということである。	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿5の施策②広域観光の推進の「施策の展開」の<広域観光の推進>の3点目、仕事のデジタル化は効果的だけでなく、人の仕事を減らし効率的な仕事を行うことにより本来人が持つ強みを磨き、新たな魅力創出につながることから「効率的かつ」を加えた。 ・めざすまちの姿15の施策②消防・救急・救助体制の充実の「施策の展開」の<消防力の充実強化>の2点目に加えた。 ・業務等をロボットやAIに置き換えるだけでなく、「ひとの力」を効果的に発揮させるためのデジタル化という本質に軸を置いて、市民サービスの質の向上に向けて力を発揮できる職場づくりに取り組むとともに、市民一人ひとりがデジタルの利便性を享受し、生き生きと暮らせる地域づくりを推進してまいりたい。
9	5年後には、現在の60歳が65歳に、65歳が70歳となり、IT(デジタル)に強い高齢者も増えてくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・No.9、10、11について、総務省「通信利用動向調査」令和元年9月の調査によれば、60代のインターネット利用者は90.5%(前年度より約14%増)に達するなど、デジタルに強い高齢者はますます増加する傾向にあり、そのような5年後、10年後を見据えてデジタル化を進めていく。一方で、現状ではデジタルに不慣れな高齢者も一定数いるため配慮が必要であると考えます。 ・万葉線へのICカード導入といった環境整備の推進、デジタル技術を活用した各交通事業者のサービスの周知を行うほか、スマホ予約・決済や沿線施設と連携したサービスなどデジタル化の推進によって公共交通を手軽に使う取り組みを進める。
10	デジタルに対する苦手意識を取り除くとともに、デジタルを使えない人をケアする、デジタルツールを使って楽しさを知ってもらう方法を出していくことが大事だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、デジタルに不慣れな方向けにスマホ講座やパソコン相談会等を実施しデジタルに触れていただく機会を、また、プログラミング大会を開催し、児童や生徒にプログラミングを通じてデジタルツールの楽しさを知ってもらう機会を設けており、誰もがデジタルの利便性を享受できるよう市民(ユーザー)の目線に立ったデジタル化を進めてまいりたい。

No.	委員からのご意見	意見に対する考え方
11	高岡にも、コードフォータカオカといって、ITを活用した仕組みを作るボランティアの方々がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染者情報の提供等においてはCode for Japanのいわゆる「シビックテック」の活躍が注目されたところ。コードフォータカオカにおいても、これまでも本市のオープンデータを活用し観光や市民生活に役立つアプリを公開するなど、ITに強い地域のパートナーであると認識しており、デジタル社会の実現に向けともに取り組んでまいりたい。 ・とやまロケーションシステムにおいては、世界で使用されている形式であるGTFSを活用し、鉄道に比べて複雑な運行経路やバスの位置情報等が検索できるようになっており、交通分野においても次世代技術を用いてきている。とやまロケーションシステムの実施に当たりcode for takaokaの協力も得ている。また、今後高岡CATVにおいて、ケーブルテレビで遅延情報を表示することも検討している。
12	17-②「高度情報化の推進」の施策だけデジタル関連の専門用語が多いが、デジタル化は、様々な施策にも関係してくると思っており、全ての施策とは言わないが、施策のベースにデジタル化という考えがないといけない。令和4年度からの計画であれば、ほとんどの施策にデジタル化は関連してくる。デジタル化に対応することで、施策をどのように推進し、効率化を図るのかを検討していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿5の③イメージアップ・誘致活動の強化の「「ひとの力」の視点」の3点目、ひとの力による魅力の創造だけでなくデジタル技術を活用した魅力の発信をセットで行うほうが効率の良い事業であることから、VRによる観光案内など「デジタル技術を活用した魅力の発信」を加えた。 ・デジタル化については、全施策共通で求められる視点であると考えている。具体的な施策については、長期的なビジョンや短期で取組むものなどを整理しながら国・県・市の施策や方向性について情報を収集し、各部局と情報を共有しながら施策を推進することによってデジタル技術の活用を通じた市民サービスの向上を目指す。
13	(育児や子育てのアプリだけでなく)幅広く取り組んでいる先進事例を参考にし、今取り組んでいることを、ITを使って便利にするだけではなく、将来を見据えたビジョンを描いて、必要と考えることに取り組むことが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿15の施策②消防・救急・救助体制の充実の「施策の展開」の<消防力の充実強化>の2点目に加えた。 ・将来を見据えたビジョンの実現に向け、先進事例を情報収集しながら、目先の利便性だけではなく、ITの活用によって真に実現すべきビジョンの実現に向け、ITを活用していく必要がある。
14	デジタル化やITがツールとなっているが、構造的変革が必要。今まで行ってきたことを便利にするのではなく、人の生活をどのように変えていくのかという視点が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・めざすまちの姿1の施策⑤雇用・勤労者福祉の充実の「施策の展開」に<働き方改革の推進>を、めざすまちの姿6の施策①商業・サービス業の振興の「施策の展開」に<キャッシュレス決済の普及促進>を加えた。 ・単に現在の業務等をデジタルに置き換えるだけでなく、業務プロセスや制度の見直し等も含め、今までの考え方の枠組みを超えて市民サービスの向上につなげていきたい。
15	「ひとの力」は大事な視点だが、後継者育成やネットワーク構築などに限定され、広がりがないかもしれない。デジタル革命をセットにして考えていけばどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の推進にあたっては、「ひとの力」を効果的に発揮させるためという本質に軸を置き、「ひとの力」という視点と一体のものと考えている。 ・めざすまちの姿2の①農業の持続的発展の「施策の展開」にスマート農業の活用について、農業技術の継承による後継者育成の強化を行う視点で記載している。

No.	委員からのご意見	意見に対する考え方
【その他全体的な視点】		
16	地方の価値が高まりつつある中で、独自性のある施策が必要だ。窓口で「人を待たせない」デジタル革命を他市に先んじて取り組むなど、高岡が変わったと思われることが必要では。	・総合計画を市民の皆様とともに進めていくためにも、本市としてどう独自性のある施策を打ち出し、お伝えしていくかは非常に重要であり、今後議論を進めていきたい。
17	輪島市でも、住民が自分の地域に自信がない、地域に何もないという状態であった。しかし、取り組みの中で、自分たちが評価されている、ポテンシャルがあったという風が変わった。何かのきっかけで住む人の自信や誇りに火が付く可能性がある。総合計画がその火を付けるような展開となればよい。	・総合計画を市民の皆様とともに進めていくためにも、本市としてどう独自性のある施策を打ち出し、お伝えしていくかは非常に重要であり、今後議論を進めていきたい。
18	施策の文言で、「図る」「推進する」「促進する」などの文末の表現で、「努めます」が続いているところがあった。部分的にあるのは仕方ないが、多用されると消極的な印象を受ける。	・各施策ごとに確認し、修正した。